第４次泉大津市総合計画の策定に向けて

# これからの泉大津市のまちづくり

**泉大津市では現在、第４次総合計画の策定を進めています。計画の策定に先立ち、ご助言、ご協力いただく有識者の方々をお迎えして、伊藤市長とともに、「これからの泉大津市のまちづくり」について語り合っていただきました。　問合　企画調整課（市役所４階）**

総合計画とは、将来、泉大津市をどのような「まち」にしていくのか、そのために、どんなことをしていくのかを総合的・体系的にまとめたものです。

左から今木桃山学院大学副学長、伊藤泉大津市長、成山大阪教育大学理事

## 泉大津市の「強み」や「弱み」は何でしょう？

**市長**　私は、生まれも育ちも泉大津市です。本市は、市域がコンパクト、市内は、ほぼ平坦で高低差もありません。自然災害が少なく、子どもから高齢者まで、誰もが暮らしやすいことが強みだと実感しています。

**成山**　それに加え、泉大津市民は地域への愛着が強い点も強みでしょう。近ごろは、若い世代の住民が増えてきています。このような方々が、昔ながらの地域コミュニティとのつながりを強めて、新旧住民が、よりよい関係をつくっていくことが、これからの課題だと思います。

今木秀和 氏

桃山学院大学副学長、学長室長、経営学部教授。泉大津市と桃山学院大学は、今年７月１日に連携協力に関する包括協定を締結

**今木**　泉大津市が他の市町にはない特徴を打ち出し、泉大津市ならではの特色を出していくためには、住み心地などの住民の視点だけでなく、産業、観光などさまざまな視点から市の方向性を考えていく必要があると思います。この場合、隣接の市町と比較して、泉大津市の持っている強み・弱みについて認識することが必要でしょう。

**市長**　隣接する市町と比較して、本市の特徴的な取り組みのひとつに、来年度からスタートする認定こども園があります。これを機に、幼稚園と保育所が、一体的な教育・保育を展開できればと考えています。

また、児童虐待早期発見のためのCAPＩＯ（キャピオ＝泉大津市児童虐待防止ネットワーク）を全国に先駆けて構築しました。現在では、児童だけでなく、高齢者、障がい者の虐待に関する相談・通告にもワンストップで対応しています。

さらに、大規模災害時には、近隣の市町も被災することが想定されますから、広い範囲で、相互支援することが必要となります。そこを考えて、本市は、東は山梨県甲府市、南は宮崎県日向市までの全国19市町と市町村広域災害ネットワークの協定を締結しています。これも本市が全国に先駆けた取り組みの一つです。

一方、本市の弱みは、戦略的なまちづくりを行ってこなかったことが挙げられます。例えば、毛布の生産量は日本一ですが、毛布といえば有名メーカーの名前が前に出て、泉大津市の名前は出てきません。市のＰＲ戦略など、長期的な展望をもったまちづくりが必要だと考えています。

成山治彦 氏

大阪教育大学理事。公益財団法人大阪人権博物館の理事長も務める

**成山**　泉大津市は、大阪の中心から電車で30分程度の距離にあることも強みの一つでしょう。ただし、周囲の自治体も条件は同じで、その中で埋もれないためには、オンリーワンになれるような取り組みが必要と思います。例えば、子どもを大事にする街や、だれもが市民としてモラルを守る街、つまりモラリッシュな街など、独自性のあるまちづくりが求められるでしょう。

## これからのまちづくりは、市民・行政・大学による協働が求められていますが？

伊藤市長

**今木**　これまでの大学の使命は教育と研究でしたが、最近では社会貢献も求められ、大学の役割は変わってきています。地域と連携し、社会とつながりながら教育を見直していくことが必要だと感じます。

行政が、市民との協働を進める際、横軸と縦軸の連携を深めることが大事かと思います。横軸とは町内会同士などの連携で、縦軸とは多様な世代間のつながりです。泉大津市には知識や経験のある定年退職した世代がたくさんいらっしゃる。こういった方々が活躍する場があれば、生きがいにもなるでしょう。

**市長**　異世代間のつながりを生み出す仕組みが必要です。例えば、長寿園は、高齢者の場所との印象を持ちますが、子どもが宿題を持って集まる場所であってもよく、市民に身近なコミュニティの拠点として活用されればよいと思います。

**今木**　行政は、職員の活用が重要です。学生に、新しいことを考えて提案するよう仕向けますが、行政も、職員が問題意識を持って、新しい提案を行う姿勢を持つことがこれからのまちづくりには重要でしょう。

**成山**　まちづくりのコーディネーターとして、まず職員を育成することは大切ですが、ずっと行政に頼りっきりではだめです。いかに市民にバトンタッチしていくかがポイントです。市民がまちづくりへの参画意識を持てるよう、そのきっかけづくり、仕掛けが重要でしょう。

## 「これからの泉大津市のまちづくり」で大事にしたいことは何でしょうか？

**市長**　地域コミュニティの再構築、地域の絆の再生が大事だと考えています。

昔は、向こう三軒両隣と言われたように、道端で気軽に会話が生まれ、旅行に行くときにはお隣に鍵を預けるような地域の絆がありました。このような絆が再生されれば、現代の課題であるいじめや虐待、孤独死などは解消されていくのではないかと思っています。

**成山**　学力の高い秋田県、福井県と大阪府を比べると、地域のつながりに格差があるとの調査結果が出ています。三世代同居が多い地方と比べて、大阪府などの都会は、異世代間のつながりが希薄ということが課題です。本市の強みである「地域への愛着」を活かして、地域のつながりを再構築していくことが新しいまちづくりには必要でしょう。

**今木**　そのためには、ＮＰＯに限らず社会問題に対して意識を持った人を組織化することも重要です。市民と行政が協働する活動が市民の自己実現の場になるとよいと思います。市民が生きがいを感じるとともに社会の発展にもつながっていくことが理想です。

**市長**　これからのまちづくりでは、市民・大学・市民団体との連携を強化し、地下水が元をたどれば同じ水を共有しているように、「地域コミュニティ」を源泉とした、心が通うまちづくりを進めていきたいですね。

## 総合計画策定にかかる市民アンケート実施中！

市民会議への応募はがきが入っています！

現在、泉大津市では第４次総合計画を策定するにあたり、16 歳以上の市民の中から無作為で抽出した 3,000 人を対象に市民アンケートを実施中です。皆さんの声を第４次総合計画に反映するため、11 月 10 日㈰までに、ご回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、市民アンケートには、泉大津市のこれからのまちづくりについて、市民の皆さんがご参加いただく「市民会議」への応募はがきを同封しています。参加を希望する人は、同封の応募はがきでお申し込みください。

なお、市民会議は、市民アンケートを送付させていただいた人を対象に募集しています。公募はしていませんので、ご了承ください。